

平成30年2月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成30年2月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸地方に春を呼ぶ、豊年祈願の郷土芸能「八戸えんぶり」が2月17日（土）～2月20日（火）の日程で開催されます。

国の重要無形民族文化財「八戸えんぶり」。その名は田をならす農具「えぶり」や、「いぶり」（ゆすぶり）に由来すると言われ、冬の間眠っている田の神をゆさぶり起こし、田に魂を込める儀式とされています。

期間中は、馬の頭をかたどった華やかな烏帽子（えぼし）を被った舞い手の勇壮な舞が見られるほか、子どもたちによる可愛らしい祝福芸も披露されます。

みなさま、ぜひ「八戸えんぶり」を見に、八戸へお越しください。

### ■八戸えんぶり【開催期間：2月17日（土）～2月20日（火）】

※詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

<https://hachinohe-kanko.com/10stories/hachinohe-enburi>

### ■八戸えんぶり鑑賞後は、あたたかいブイヤベースをお楽しみください。

八戸ブイヤベースフェスタ【開催期間：2月1日（木）～3月31日（土）】

※詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

<http://www.hhrp.jp/hbb>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 2月号 レポート

平成30年1月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	国宝・合掌土偶 9年ぶり“海外出張”へ
(2)	平昌五輪アイスホッケー女子日本代表 中村亜実選手に八戸市スポーツ大使を委嘱
(3)	是川縄文館 入館者数が20万人に到達
(4)	ユートリー 八戸三社大祭展示ホールを改装へ

## 【産業】

記事	概要
(5)	八戸南部せんべい 岐路 “発祥の地”で廃業相次ぐ
(6)	ベトナムで青森県産品フェア開催 水産加工品や地酒などをPR
(7)	八戸港からリンゴ輸出 台湾への試験輸送着手
(8)	八戸ワインお披露目 一般販売では即日完売
(9)	八戸ブイヤベースフェスタ2018開幕 ～自慢の味 堪能あれ～
(10)	青森県内今春高卒内定率 過去最高の91%

## 【地域】

記事	概要
(11)	八戸の風景を屋形船で満喫 県南在住外国人が体験乗船
(12)	2017年八戸消防本部管内 火災86件で過去最少
(13)	種差海岸 オオハンゴンソウ駆除活動に成果
(14)	閉店銭湯を活用し 通所入浴サービス
(15)	八戸市出身の天文学者「前原寅吉」 功績たたえ小惑星に命名される
(16)	八戸生まれ元宝塚トップスターの北翔海莉さん 介護老人施設でミニコンサート
(17)	明治期の菊の葉標本発見 阿房宮ルーツの解明なるか？

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	ヴァンラーレ八戸 公式ファンクラブ設立

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>国宝・合掌土偶 9年ぶり“海外出張”へ</b></p> <p>八戸市は、市埋蔵文化財センター是川縄文館で常設展示中の国宝「合掌土偶」をフランスのパリ日本文化会館で開かれる特別展（10月17日～12月8日）に貸し出すと発表した。合掌土偶の“海外出張”は9年ぶり5度目。フランスで披露されるのは20年ぶり2回目になるという。東京国立博物館で7月3日から2カ月間開かれる特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」に出展した後、海を渡る。約半年間、合掌土偶が不在となる縄文館にはレプリカやこれまで未公開の重要文化財などを展示する予定。</p>
(2)	<p><b>平昌五輪アイスホッケー女子日本代表 中村亜実選手に八戸市スポーツ大使を委嘱</b></p> <p>八戸市は1月9日、平昌五輪アイスホッケー女子日本代表で八戸市出身の中村亜実選手(30)＝西武＝に、市スポーツ大使の委嘱状を交付した。中村選手は市立豊崎小2年時にアイスホッケーを始め、八戸ホワイトベア、八戸レッズでプレーした。下長中3年時に東京都内へ転校し、コクドレディース入り。平昌五輪では、2014年のソチ五輪に続き、2大会連続で日本代表に選ばれた。市スポーツ大使は、市ゆかりの選手に地元の魅力を広くPRしてもらうことを目的として、本年度創設され、これまでに3チーム、2個人に交付している。</p>
(3)	<p><b>是川縄文館 入館者数が20万人に到達</b></p> <p>2011年7月に開館した八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館の入館者数が1月13日、20万人に到達した。記念すべき20万人目となったのは、久慈市の自営業成田信彦さん(52)。館内で記念セレモニーが開かれ、同館オリジナルグッズと合掌土偶のレプリカが成田さんに贈られた。20万人達成に当たり、古館光治館長は「地元の観光名所として、もっと多くの人に来てもらえたらうれしい」と話した。</p>
(4)	<p><b>ユートリー 八戸三社大祭展示ホールを改装へ</b></p> <p>八戸市は、八戸駅に隣接する八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）1階にある八戸三社大祭の山車展示ホールをリニューアルする方針を明らかにした。新たな展示は「『八戸三社大祭ミュージアム』の創出」がテーマ。30分ごとにせり上がるミニ山車と、100体を超える人形で行列を再現するほか、動画やタペストリーを用いて祭りの概要を紹介する。1992年から展示している山車を3月中旬までに撤去し、7月をめどに一新する予定。</p>

## 【産業】

記事	概要
(5)	<p><b>八戸南部せんべい 岐路 “発祥の地”で廃業相次ぐ</b></p> <p>南部地方を代表する菓子で、土産物としても人気の高い南部せんべい。発祥の地とされる八戸市で製造業者の廃業が相次ぎ、“元祖”の味が岐路に立たされている。最盛期には市内だけで100店舗ほどあったと言われるが、現在は20店舗に満たず、業界団体の八戸煎餅組合も事実上の休眠状態。家庭経営の店が多く、企画力や営業力で市外の業者に水をあけられているのが現状。関係者は「今ならまだ伝統を守りながら新商品を打ち出していくことができる」とし、“元祖”復活を強く願っている。</p>
(6)	<p><b>ベトナムで青森県産品フェア開催 水産加工品や地酒などをPR</b></p> <p>八戸市など青森県内5市町や地元銀行、参加企業15社で組織する実行委員会は1月10日から15日まで、ベトナムのホーチミン市で県産品のPRイベント「ジャパン青森フードフェア」を展開した。ベトナムでのフェアは3年連続。物産展は、商業ビル「サイゴンセンター」と、ビルの核テナント「ホーチミン高島屋」を会場に行われ、イカやサバの水産加工品、りんごジュース、地酒、シードル、黒ニンニクの加工品など48商品をPRした。来場者からは「とてもおいしい」「日本の商品は安心感がある」「青森の映像を見て興味を持った」などの声が聞かれたという。</p>

(7)	<p><b>八戸港からリンゴ輸出 台湾への試験輸送着手</b></p> <p>八戸港国際物流拠点化推進協議会は1月24日、八戸港から青森県産リンゴを台湾に輸出する試験輸送に着手した。本格的な輸出体制の構築を見据え、輸送に要する時間やコスト、品質保持の状態などを調査、検証し、八戸港を利用したリンゴ輸出の促進を目指す。取扱量の拡大を契機に、将来的な台湾航路の開設にもつなげたい考えである。</p>
(8)	<p><b>八戸ワインお披露目 一般販売では即日完売</b></p> <p>八戸市南郷産のブドウを使った「八戸ワイン」のお披露目会が1月25日、八戸市の「レストランテ澤内」で開かれた。1年目の八戸ワインは、白とロゼのスパークリングワインの2種類。お披露目会には、関係者ら約40人が出席。ブイヤベースや豚のトマト煮込みといった洋食のほか、ぶり大根やさばずしなど和食も提供され、出席者がワインと料理との相性を楽しんだ。26日に醸造元の澤内醸造、27日にはユニバースの市内7店舗で一般に販売され、いずれも即日完売した。本数の少なさを加味しても関係者の予想より早く、市民の関心の高さをうかがわせた。</p>
(9)	<p><b>八戸ブイヤベースフェスタ2018開幕 ～自慢の味 堪能あれ～</b></p> <p>「八戸ブイヤベースフェスタ2018」が2月1日に開幕した。3月31日までの2カ月間、八戸市と三沢市の16店舗で、八戸港に揚がった旬の魚介類を用いたブイヤベースを、2千円～4千円台で味わえる。八戸ブイヤベースは八戸産の魚介類を4種類以上使うのが決まりで、店ごとに内容が異なり、「八戸流は二度おいしい！」のテーマを掲げてリゾットやコロッケなどスープを用いた締め料理を提供する。1月28日に参加シェフら約20人が八戸パークホテルに集い、イベントをPRした。</p>
(10)	<p><b>青森県内今春高卒内定率 過去最高の91%</b></p> <p>2018年3月に青森県内の高校を卒業予定の生徒の就職内定率（昨年12月末現在）は、91.0%（前年同月比2.0ポイント増）、県内求人倍率は2.60倍（0.23ポイント増）で、共に統計が始まった1994年3月卒以降、過去最高を記録した。内定者を公共職業安定所別に見ると、八戸が734人と最多で、青森は548人、弘前が502人など。青森労働局によると「全国的な人手不足もあって、企業の採用意欲の高まりが内定率を押し上げている」と分析している。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p><b>八戸の風景を屋形船で満喫 県南在住外国人が体験乗船</b></p> <p>みなとオアシス八戸運営協議会は1月5日、青森県南地方在住の外国人を対象とした「八戸こたつ屋形船」の体験乗船会を開催した。県内で増える外国人観光客を背景に、まずは地元に住む外国人に魅力を伝え、発信してもらおうと初めて企画した。午前と午後1回ずつの運航で計約30人が参加。こたつで温まりながら、グレットタワーみなとや蕪島、八戸大橋などを巡回し、ゆったりとした船旅を満喫した。八戸こたつ屋形船は、完全予約制で3月末まで運航を予定。</p>
(12)	<p><b>2017年八戸消防本部管内 火災86件で過去最少</b></p> <p>八戸市など8市町村を管轄する八戸消防本部管内で2017年の1年間に発生した火災は86件で、1971年の発足以降最も少なかった。2016年より49件減少し、これまでの最少だった1990年の99件を下回った。林野火災が大幅に減ったほか、建物火災も2割以上減少。近年相次いだ山林での不審火事案が確認されなかったほか、住宅用火災警報器や電子たばこの普及が背景にあるとみられる。</p>

(13)	<p><b>種差海岸 オオハングソウ駆除活動に成果</b></p> <p>八戸市の種差海岸に生息する特定外来種植物オオハングソウの駆除活動が成果を上げている。地元の自然保護団体の取り組みにボランティア活動も加わり、市教委社会教育課によると、2007年夏から現在までの駆除本数は約45万本に達した。オオハングソウが1本も見られなくなった区域もあり、関係者は「外来種を可能な限りなくし、八戸の自然を守りたい」と景観保全に意欲を見せる。</p>
(14)	<p><b>閉店銭湯を活用し 通所入浴サービス</b></p> <p>八戸市の医療介護サービス業「リブライズ」は4月から、昨年閉店した白銀3丁目の銭湯「しろがね軟水泉」を活用し、介護保険制度で要支援者、要介護者などに認定された人を対象とした通所入浴サービス事業を開始する。理学療法士と介護専門家が常駐し、入浴とリハビリをサポート。待合室にはトレーニングマシンなどを設置し、リハビリを行えるようにする。市内の利用者については送迎も行う。利用料は1回400～600円となる見込み。全国的に数を減らしている公衆浴場が、1人では入浴に不安を感じている人も気持ち良く大きな風呂に漬かれる、介護の場として生まれ変わる。</p>
(15)	<p><b>八戸市出身の天文学者「前原寅吉」 功績たたえ小惑星に命名される</b></p> <p>世界で初めてハレー彗星の太陽面通過の確認に成功するなど、天文学に多大な貢献を果たした八戸市出身の天文学者、前原寅吉(1872～1950)にちなみ、太陽の周りを回る小惑星が「Maeharatorakichi」と命名されることになった。名前が付いた小惑星は直径約10キロで、火星と木星の間にある軌道を公転しており、大きさは十和田湖と同程度だとされる。市教委は「八戸市出身者の個人名が小惑星に命名されるのは、恐らく初めてではないか」としている。</p>
(16)	<p><b>八戸生まれ元宝塚トップスターの北翔海莉さん 介護老人施設でミニコンサート</b></p> <p>八戸市生まれの元宝塚歌劇団男役トップスターで、八戸特派大使の北翔海莉さんが1月29日、八戸市の介護老人保健施設「サンライフ豊寿苑」を慰問し、ミニコンサートを行った。北翔さんは1998年に宝塚歌劇団に入団。月組、宙組に配属後に専科を経て、2015年に星組の男役トップスターに就任した。2016年に退団後は、全国の老人ホームで慰問を行っており、青森県内では2回目となる。北翔さんは「今後も大使として、八戸でも活動を続けたい」と語った。</p>
(17)	<p><b>明治期の菊の葉標本発見 阿房宮ルーツの解明なるか？</b></p> <p>八戸市の造園業「香月園」で2015年、約120種類の菊の葉を標本にした2冊の本が見つかった。年代は八戸で菊づくりが盛んだった明治の中ごろとみられ、北奥羽を代表する食用菊「阿房宮」の親と伝えられる菊も確認された。本の由来は定かではないが、関係者はこの本をひもとくことが、謎に包まれた阿房宮のルーツや、当時の菊文化を知る手掛かりになるかもしれないと期待を寄せる。2月4日には市内で本に関する報告会を開く。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p><b>ヴァンラーレ八戸 公式ファンクラブ設立</b></p> <p>日本フットボールリーグ(JFL)のヴァンラーレ八戸は1月11日、公式ファンクラブの設立を発表した。観客動員数増加や安定した運営費の確保などにつなげる狙いがあり、J3昇格に必要な「ホーム戦観客数平均2千人以上」の2季連続達成の一助としたい考え。ファンクラブは有料会員制。年会費に応じて6プランあり、シーズンパスの割引や、ホーム戦の先行入場、オリジナルグッズの配布などがある。年会費が最も高いプラチナ会員のみ先着10人限定。詳細は公式ホームページで公開している。</p>

## ふるさと寄附金のご案内

「ふるさと寄附金」とは、市内外を問わず、「八戸を応援したい」という方々から広くご寄附をいただく制度です。これまで納めてもらっていた税を「ふるさと寄附金」に振り替えていただくことで、直接、寄附者の意向を八戸のまちづくりに反映することが可能となります。

- ◆ 寄附金の使いみちをお選びいただき、「震災復興基金」「奨学ゆめ基金」などの基金積立や、教育・福祉・環境などの各種事業に充てることができます。
- ◆ 寄附をされた金額のうち2,000円を超える分について、一定限度まで住民税の税額控除がうけられます。
- ◆ 法人・団体からの寄附も受付しています。法人の場合、地方公共団体に対する寄附金は全額が損金算入できます。
- ◆ 寄附をいただいた個人の方には、金額に応じて、八戸せんべい汁セットやいちご煮セット、八戸いかごはんギフト、南郷そば・つゆセットなどの特産品を進呈いたします。
- ◆ 総務大臣からの通知（平成29年4月1日付け総税市第28号）を踏まえ、平成29年7月から、八戸市内在住の方へのお礼の品の進呈を取りやめることとしております。

10,000円以上30,000円未満・・・特産品A1品

30,000円以上50,000円未満・・・特産品B 1品 または 特産品A 2品

50,000円以上100,000円未満・・・特産品C 1品 または 特産品A・B各 1品

100,000円以上…………… 特産品D 1品 または 特産品C 2品 または 特産品A・B・C各1品

詳しくは <https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/02203> をご覧ください。

### お申込み方法

ホームページ

⇒ 八戸市ホームページ (<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/furusato/>) から、「ふるさと寄附金申込フォーム」に必要事項を入力して送信してください。

郵送

⇒ 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項を記入して、八戸市住民税課へ郵送してください。「ふるさと寄附金申込書」は郵送でお届けしますので、八戸市住民税課までご連絡ください。ホームページからもダウンロードできます。

< 宛先 > 〒031-8686

青森県八戸市内丸一丁目1番1号 八戸市 住民税課 ふるさと寄附金担当

TEL : 0178-43-9232 (直通) 、Email : [jumin@city.hachinohe.lg.jp](mailto:jumin@city.hachinohe.lg.jp)

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお立ち寄りください。

八戸市東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL : 03-3261-8973 / FAX : 03-3239-6723 / Email : [tokyo@city.hachinohe.lg.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.lg.jp)

所長 古町有加 主査 奈良岡邦彦 囑託 籠利京子